

戦略的創造研究推進事業（社会技術研究開発）
「安全な暮らしをつくる新しい公／私空間の構築」研究開発領域
平成28年度採択プロジェクト企画調査 事後評価報告書

平成29年5月26日

1. 研究代表者：金井 秀明（北陸先端科学技術大学院大学先端科学技術研究科 ヒューマンライフデザイン領域 准教授）

2. 課題名：情報管理・共有システムを活用した地域包括ケア支援に向けた調査

3. 期間：平成28年10月1日～平成29年3月31日

4. プロジェクト企画調査の概要

地域包括ケアシステムの推進には、住宅に住まう高齢者と支援サービス提供者との適切な関係性の構築が重要だが、情報通信技術を利用する場合にはシステム面および運用面でいくつもの課題がある。本プロジェクト企画調査では、試作した情報管理・共有システムを協力自治体で初期運用させながら課題を整理し、あわせて、他の類似のシステムに関する調査や実証実験フィールドを拡大するための活動を実施した。

5. 事後評価結果

5-1. プロジェクト企画調査の目標達成状況

試作した情報管理・共有システムを自治体や福祉法人などの地域の協力を得ながら試験運用し、システム運用上の課題を抽出して論点整理ができたことは評価できる。他の類似のシステムについてのヒアリング調査、他地域での実証実験に向けた協力体制の構築についても意欲的な取り組みが行われ、プロジェクト企画調査としての目標は概ね達成できたと考えられる。しかしながら、プロジェクト企画調査の主軸である試作システム運用の対象者が4名で、うち最も長く実証を行った1名のみを対象とした分析では、システム導入時の課題や解決策について十分な考察がなされたとは判断し難い。試作システムの特徴である見守り項目の厳選と簡素なシステムがどのように有効だったのか、アラートを適切に機能させるために何が必要かなど、システムの要になる部分の検討が不足しており、社会実装に向けた道筋を示す材料が揃うには至っていない。

5-2. 研究開発プロジェクトの提案に向けた準備状況

研究開発プロジェクトに展開するために、地域包括支援センターなどの活動に寄り添いながら、試作システムを全市レベルまで拡大して運用する計画の立案が望まれるが、次の点が大きな課題として挙げられる。

第一に、プロジェクト企画調査で明らかとなった、システムを簡素化したにもかかわらず入力のための手間が増えるというユーザーの負担を解消する手立てが見出せない限り、運用拡大は難しいと考えられる。非専門職も入力することを前提にシステムを簡素化したとあるが、医師の電子カルテ、介護事業者の業務システムとの連携がないために重複入力の負担もあり、ユーザーの効率化に寄与するようシステム上・運用上の改善策の検討が求められる。さらに、見守り対象者を増やせば関係する多職種の支援者たちの負担も比例して増すことになり、対象者 4 名の試験運用を単純に規模拡大しただけでは立ち行かないと考えられ、この問題をどう解決するか仮説を立てて規模を拡大する必要がある。一方で、システムの導入は、見守りの質や頻度の向上、多職種連携の促進という効果をもたらすことが示唆されたことから、この効果と業務量増加の関係を検討して、費用対効果を明確に提示し自治体の協力を得ていくことも肝要であると考えられる。

第二に、情報の取り扱いに関して、報告書でも課題として挙げられた、ロコミによる情報漏れのリスクや、「情報共有したいが、全面的に情報共有はされたくない」という意識への対応を考えなければならない。これには、守秘義務をいかに守らせるのか、心理的抵抗をどう低減するのかといった使用者の心理面へのアプローチが重要であり、すでにセキュリティ心理学の導入などを検討しているということだが、具体的な解決策の提示を期待したい。また、今後、近隣住民や流通業者など見守りの関与者の拡大を検討しているとあるが、情報の取り扱いについて個人情報やプライバシーの問題に対するより一層の配慮が求められ、これらの問題に対するソリューションを備えていくことが同システムを広く浸透させるためにも重要であると考えられる。

以上の課題をまずは検討し、協力自治体で規模を拡大していくことが望まれるが、あわせて、継続運用のための方策と他地域へ広く展開するための道筋についても提示していかなければ社会実装は見込めない。さらに、他の類似のシステムや取り組みに対する優位性を示すには、堅実なシステム設計と運用マニュアルの整備とともに、新規性を打ち出していく必要があるだろう。この点については、なぜ本領域で研究開発プロジェクトを行う必要があるのかということとも関係してくると思われ、例えば、他の研究開発プロジェクトとも協力・連携しながら、高齢者を中心に世帯の構成員にも目が向けられた自治体モデルとしての発展なども視野に入れることもできるかもしれない。

以上